とうきょう普及インフォメーション

平成29年１月　島しょ版

◆ 新年を迎えて
◆ 日本一のブバルディア産地を目指して　～大島のブバルディアの産地力強化～
◆ 農家が取り組む加工品の数々　～独自のアプローチで新島産農産物をＰＲ～
◆ アシタバ共撰出荷の品質向上に向けて　～検品立会いによる病害虫被害調査結果より～
◆ 切り葉・切り花共撰共販出荷組合への活動支援　～さらなる出荷拡大へ向けて～
◆ 東京の花き生産を支える島しょ農業　～切り葉生産の品質向上と安定生産～
◆ 大島メモ：利島の伝統保存食「煮干し餅」の商品化に向けて
◆ 新島メモ：神津島村での緑肥活用
◆ 三宅メモ：パッションフルーツの販路拡大
◆ 八丈メモ：ＪＡ女性部加工部会の加工場が移転
◆ お知らせ

東京農業 &TOKYO

東京都産業労働局

新年を迎えて

東京都島しょ農林水産総合センター
所長　**角田　由理子**

島しょ地域の皆様、明けましておめでとうございます。清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東京の農業は、昨今の都市農業をめぐる法制度の動きとともに、少子高齢化・人口減少社会の中での担い手確保の問題、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）を見据えた経営力・競争力の強化、また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした需要拡大への対応など、大きな転換点を迎えつつあります。

そのような中、東京都は、昨年８月、農林・漁業振興対策審議会から、東京農業が今後展開すべき振興の方向性について答申を受けました。島しょ地域において、農業は地域経済全体を支える基盤産業であり、東京農業の発展には、島々の地域特性を活かした島しょ農業の振興が重要であると改めて指摘されています。貴重な観光資源としての地域経済への貢献もあわせ、新規就農者への支援や流通手段の改善、商品開発や６次産業化に向けた異業種連携など、これまでの取組の更なる強化・推進が求められています。

都は、答申を踏まえ、近々行政計画である農業振興プランにまとめてまいります。2017年は、「都市と共存し、都民生活に貢献する力強い東京農業の新たな展開」へと踏み出す年と位置付け、皆様とともに東京農業、そして島しょ地域の農業の振興・発展に努めてまいります。

さて、各事業所普及指導センターにおいては、今年も、農業者の方々が抱える生産から流通、消費、経営に至る様々な現場の課題に真摯に向き合い、解決へ向け支援活動を行っていきます。

各島に共通した喫緊の課題は、担い手の確保・育成です。島しょ農業の活性化のためにも、意欲ある新規就農者や後継者、女性農業者等への支援を積極的に行っていきます。

また、東京2020大会に向けた共通課題に掲げる「花と緑の夏プロジェクト」では、島しょ地域の代表的な花き・切葉であるブバルディア、キキョウラン、フェニックス・ロベレニー等を中心に、出荷・輸送方法の改善や日持ち性向上技術開発について、研究部門と連携して取り組んでいきます。

さらに、品種登録申請した大島のアシタバ「東京スカーレット」や、商品開発でブランド化を目指す新島のアメリカイモ、新規導入された三宅島のパッションフルーツ、八丈島の八丈フルーツレモンなど、期待と注目が集まる特産物についても、安定生産への支援を行っていきます。

島しょ農林水産総合センターは、本所及び各事業所一丸となって島しょ地域の農業振興のために尽力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、2017年が実り多い一年となりますよう、皆様のご健勝と島しょ地域の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

大島事業所
普及指導センター

日本一のブバルディア産地を目指して

～大島のブバルディアの産地力強化～

ブバルディアは大島を代表する切り花で、大島町の農業産出額１位（平成26年東京都農業会議調査）を占める基幹作物です。しかし、ここ数年は部会員と作付面積の減少が続いています。

こうした中で日本一の産地を目指し、生産を盛り立てようと、ブバルディア生産者部会、大島町、大島支庁、島しょ農林水産総合センター大島事業所といった関係機関が協力して様々な取組を行っています。

大島町新規就農者支援研修センターの発足

平成27年４月に大島町新規就農者支援研修センターが発足し、新たなブバルディア農家の育成研修がスタートしました（写真１）。募集は年１回、研修期間は２年間です。現在３名（２年目１名、１年目２名）が研修中です。研修内容はブバルディアを主とした栽培実習、座学による基礎研修や島外でのマーケティング研修等で、栽培実習ではブバルディア栽培農家が講師を務め、実践的な指導が受けられます。

普及指導センターは植物生理、病害虫防除といった基礎研修の講師を務め、定年等就農者セミナー生や地元農家との交流機会の設定、青年等就農計画作成支援等を行っています。これらの取組により、新たなブバルディア農家の誕生が期待されています。

写真１　調整作業をする研修生

センチュウ類の防除

ブバルディアでは、ピシウム属菌による根腐病、リゾクトニア属菌による苗立枯病、ネコブセンチュウなどの土壌病害虫が問題になります。その中でもセンチュウ類の防除は難しく、普及指導センターではセンチュウ類の防除を効果的に行うため、生物的防除や化学的防除、耕種的防除を組み合わせた総合防除についての資料を作成しました。

大島では圃場の排水性が非常に良いことから、土壌消毒後の雨水流入によるセンチュウ類の伝搬が問題となります。その対策としてパイプハウスのツマ面や側面に、畦シートや雨水流入防止シートを設置して、雨水による病害虫の流入を防止する方法を推進しています。

写真２　部会を対象とした品種検討会

産地力強化のために

ブバルディア栽培においてはパテント品種の使用料が経営を圧迫しており、部会からは経営に有利なオリジナル品種の育成が望まれています（写真2）。農総研と園芸振興担当では在来種を親株とした新品種を育成中です。また栽培施設の更新、夏場の安定出荷のための保冷庫やコンテナ置き場等の整備等、課題は多くあります。

普及指導センターでは、これらの課題解決に向けて、関係機関と協力しながら大島のブバルディア栽培を支援していきます。

大島事業所
普及指導センター
新島分室

農家が取り組む加工品の数々

～独自のアプローチで新島産農産物をＰＲ～

新島の特産野菜と言えば「アシタバ」と「アメリカイモ」が有名です。この２品目は、青果販売もされていますが、近年では加工品への原料供給、委託加工用の出荷、さらには農家自らが加工品を製造し販売する６次産業化といった様々な用途に使われています。

新たなアシタバ加工品をお土産に

新島の「アシタバ」は、東京エコ100を取得した化学肥料と化学合成農薬を使用しない栽培をしています。また、東京都食品技術センターとの連携により開発された「アシタバのペースト化技術」を用いた加工品が数多く販売されています。その中で、観光客向けのお土産品が少ない点に着目した認定新規就農者は、普及指導センターが紹介した専門家との連携により新商品「明日葉フィナンシェ」（写真１）を作製しました。８月中は観光客が買っていく姿が目立ち、９月以降も本格的な洋菓子の少ない島ということもあり島民にも大好評でした。

写真１　明日葉フィナンシェ

アメリカイモ100%の焼酎作り

新島の「アメリカイモ」（品種名‘七福’）は、古くから島民の主食として重用される野菜です。どの農家でも自家用として少量作り続けられてきたアメリカイモですが、意欲的な農家と島内酒造メーカーの連携により、平成24年から増産され、原料のアメリカイモを100％新島村産とした焼酎「七福嶋自慢」が製造されました。

今では、新島産野菜をＰＲする上で欠かせない加工品の１つとして、知名度が上がってきています。

クラウドファンディングの活用

平成27年度からは、農家と酒造メーカーとの連携により、さらなるプレミア商品の開発に取り組んでいます。それは、芋焼酎の製造に使用する麹用大麦も新島で栽培して、原料の全てを新島村産とする「新島100％プレミアム焼酎プロジェクト」です。その資金を調達するための手法として、チャレンジ農業支援事業を活用してクラウドファンディングの専門家に助言を頂くなど、商工業と上手く連携することで従来の農業という枠組みを超えた新たな取組に挑戦しています。

写真２　プロジェクトの告知ページ

2020年に向けて

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を“東京島酒で飾りたい！”そんな想いで作り上げた焼酎で、世界中から訪れる一流のアスリートや関係者、そして観戦や観光に訪れる皆様をおもてなしできたら最高です。

普及指導センターでは、こうした農家の意欲的な取組に対して、事業活用の助言などを含めて積極的に支援していきます。

三宅事業所
普及指導センター

アシタバ共撰出荷の品質向上に向けて

～検品立会いによる病害虫被害調査結果より～

共撰出荷されるアシタバの出荷量は、伊豆諸島の中で三宅島が一番となっています。平成28年１月にアシタバの出荷団体が、新たに発足した「三宅島農業振興会あしたば生産者部会」となり、これを機に集荷の際の検品基準を厳しくすることとしました。

そこで、出荷団体変更後の出荷動向と、普及指導センターと園芸振興担当で実施した検品立会いによる病害虫発生状況をお知らせします。

アシタバ共撰出荷の実績

平成28年のアシタバ出荷量と単価に関して、前年同月との比較を図１に示します。出荷量は前年を下回っていますが、これは検品基準を厳しくしたため、生産者が出荷調整に時間がかかり、１戸あたりの出荷量が減少したことが主な要因です。

一方、単価に関しては、前年に月平均で１袋357円という史上最高の高値だった８月を除くと、前年を大きく上回っています。市場での単価は、単に出荷物の品質や需要のみで決まるものではなく、特にホウレンソウやコマツナなど葉物を中心とした他の野菜の市況に大きく影響されます。このため一概には言えませんが、検品強化によって、老化した葉や腐りなどの混入が無くなり品質が向上したことにより、単価が上がったと考えられます。

生産者部会では、今後も高品質を保つことによって、高単価の維持を目指します。

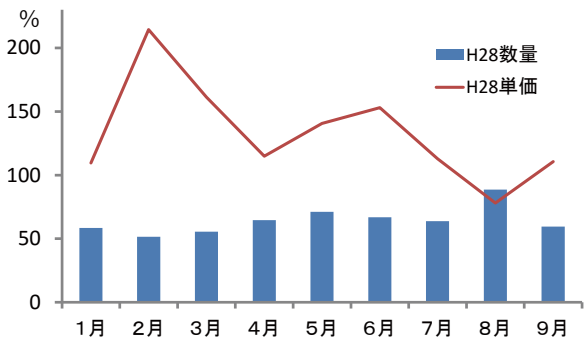

図１　三宅島アシタバ共撰出荷実績（前年同月比）

病害虫発生状況

アシタバの検品では、返品や差し替えが発生します。その原因を明らかにするため、普及指導センターでは、出荷されたアシタバを各月400袋ずつ目視調査しました。

その結果、出荷物のごく一部に被害の痕跡が確認されました（図２）。病害では、８月頃から主にさび病（写真１）が増加し始めます。虫害では、５月にアブラムシ類、６月にヒメヨコバイ類（写真２）が確認されました。このように、時期によって病害虫被害が散見されますので、出荷の際に注意することと、栽培時期に合わせた適切な防除を行うことが重要になります。

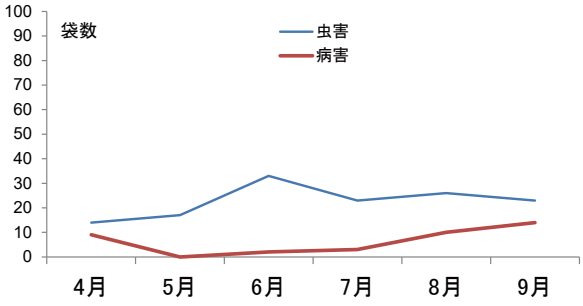

図２　被害の痕跡を発見した袋数（母数400袋）

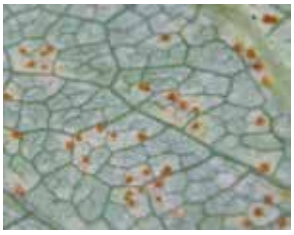

写真１　さび病（葉裏）

写真２　ヒメヨコバイ類成虫

今後に向けた支援

検品基準を厳しくした当初は、返品が多く発生し、出荷者の混乱が見られました。普及指導センターは、出荷マニュアルの作成、意見交換会の開催により、出荷時の混乱の収束に努めました。今後も定期的な目ぞろえ会等の開催や病害虫に関する情報提供等を通じて、三宅島産アシタバの高品質維持を支援します。

八丈事業所
普及指導センター

切り葉・切り花共撰共販出荷組合への活動支援

～さらなる出荷拡大へ向けて～

八丈島切り葉・切り花共撰共販出荷組合（以下、出荷組合）は、一般切り葉・切り花生産者の生産技術並びに品質の向上と経営の安定を図ることを目的に平成18年に設立されました。

現在は、組合員68名で活動しており、キキョウラン、モンステラ、タマシダ、オーニソガラム、コルディリーネやテルミナス･ティ（以下ティ・リーフ）等を中心に多種多様な切り葉・切り花を出荷しています。また、新種苗導入、現地検討会や学習会等を行っています。

キキョウランの出荷拡大に向けて

キキョウランは出荷組合において最も出荷金額の大きい品目であり、年々、出荷金額を伸ばしています（写真１、図）。その理由として、①年間を通して販売単価が安定していること、②耐暑性・耐寒性に優れること、③病気の発生が少ないこと等が考えられます。しかし一方で、ハダニの食害による品質の低下が問題になっています。そこで、普及指導センターでは、圃場の定期巡回や農薬情報の提供、病害虫防除講習会の開催により、キキョウランの品質向上を図っています。

写真１　キキョウランの栽培圃場

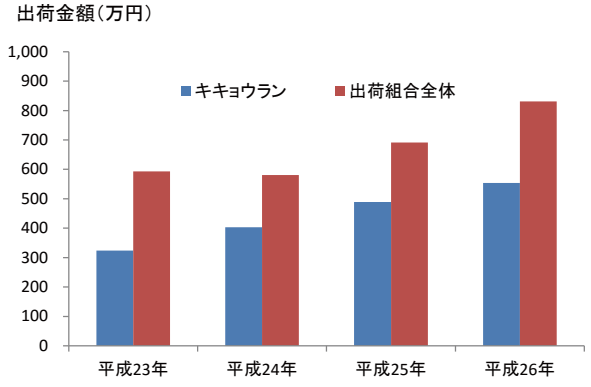

図　出荷金額の推移

有望品目の育成

ティ・リーフは島内で栽培されていましたが、フラダンスで使用するレイの素材（レイ・プランツ）になることが分かったため、平成20年より園芸振興担当と連携しながら生産振興を進めています（写真２）。

写真２　ティ・リーフの栽培圃場
とティ・リーフのレイ（右上）

普及指導センターでは、ＪＡと連携し平成27年３月に関東一円のフラ教室(158校)を対象にレイ･プランツの需要調査を行いました(有効回答数22)。その結果、フラ教室の３割以上はハワイから輸入したレイ・プランツを使用しており、フラ教室の８割が八丈島のレイ・プランツを使用したいと考えていることが分かりました。この結果から、八丈島のレイ・プランツに寄せる期待が大きいことが分かり、この情報を生産者と共有し、出荷意欲の向上を図っています。

また、八丈島のティ・リーフ栽培者へ聞き取りを行った結果、平成27年の出荷金額は50万円強で、出荷枚数は32,000枚/10a、１a当たりの売り上げは約15万円でした。八丈島の基幹作物であるルスカスやレザー・ファンには及びませんが、管理の手間が少ないことを考慮すると有望な品目だと思われました。新たにティ・リーフ栽培に取り組む生産者もでてきていることから、今後も生産と需要のバランスを考慮しつつ生産や販売の支援に取り組んでいきます。

東京の花き生産を支える島しょ農業

～切り葉生産の品質向上と安定生産～

農業振興事務所振興課技術総合調整担当

東京都の花きは、鉢花、花苗、切り花、切り葉などが、それぞれの地域の特色を活かして生産されています。農林水産部の農作物生産状況調査報告書（平成25年産）では、花き類の産出額は37億９千万円となっており、島しょ地域が半分を占めています（図）。

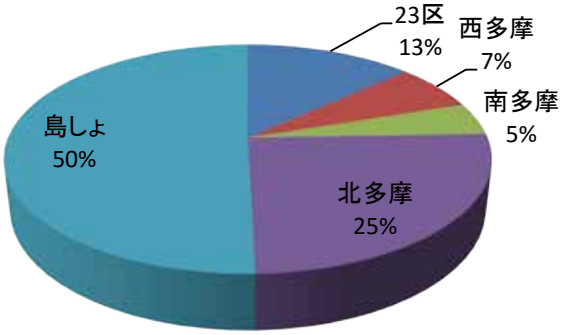

図　都内の花き産出額割合

島しょ花き生産の概要

島しょ地域の花き類産出額は19億円であり、上位４町村の割合は、八丈町が８割を超え、以下、大島町、三宅村、神津島村となっています。

生産額の多くは切り葉類で、フェニックス・ロベレニー（以下、ロベ）、レザーリーフ・ファーン（以下、レザー）、ルスカスなどがあり、近年はキキョウランの生産も増えています。

主な販路は全国の生花卸売市場への出荷であり、買参業者の求める高い品質を目指しながら、他県や外国産地と厳しい競争を行っています。

東京都中央卸売市場年報（平成27年）によると、切り葉類取扱額の多くを東京都の生産物（島しょ産）が占めており、その割合はロベ95％、レザー 19％となっています。どちらも全国第１位であり、市場にとって重要な産地となっています。

良品生産、安定生産へ向けた取組

島しょ地域の普及指導センターでは、施肥や病害虫防除などの栽培管理技術の支援、共撰共販体制の支援を行い、生産者、ＪＡ等とともに生産向上、出荷強化に取り組んでいます。

写真１　ネットハウス

主要な産地である八丈町の例をあげると、山村・離島振興施設整備事業により、ネットハウス（94棟）、耐風強化型パイプハウス（173棟）の導入が図られています。

これらの栽培技術指導や施設整備により、台風等による葉の傷みなどの軽減、出荷期間の拡大などが図られています。こうしたことでネットハウス（ロベ栽培）では、100 ～ 130万円／ 10ａを売り上げる事例もあります。

写真２　大臣賞を受賞したレザー

レザー、ルスカス、キキョウランは耐風強化型パイプハウスの普及と栽培技術指導により、品質向上が図られています。

今後の展望

島しょ地域において、栽培技術の支援と施設導入を推進することで、生産の拡大・安定、経営の向上が見込まれます。

東京2020大会開催に向けて、花きの需要増大が期待されます。今後も良品の生産量増加に向けて、皆さんと取り組んでいきます。

大島メモ　利島の伝統保存食「煮干し餅」の商品化に向けて

JA東京島しょ利島支店では、婦人部を中心に、サツマイモとモチ米の加工品「煮干し餅」の商品化に向けた取組を行っています。今年度は、山村・離島施設整備事業を活用し、「煮干し餅」作りを含めた加工施設の建設を計画しています。

普及指導センターでは利島においても、環境・風土に合った加工用品種選びとして、可食部の色の異なる４品種の収量、形質の比較を行いました。今後は、「煮干し餅」に加工して商品性の比較を行い、栽培品種の絞り込みを行います。

利島に導入予定のサツマイモ

新島メモ　神津島村での緑肥活用

神津島村の田の沢地区は、土地がやせていることから、農地の利用率があまり高くありません。そのため、土壌改良を目的として緑肥の品目について検討しました。検討した４種類の緑肥のうち、地表面を覆い隠すまで成長し十分な生草量が得られたのは「ヘアリーベッチ」と「クリムゾンクローバー」でした。この２種類は景観作物としても有望で、鮮やかな花が満開になり、５月の大型連休に訪れる観光客の目を楽しませています。

ヘアリーベッチ（左）とクリムゾンクローバー（右）

三宅メモ　パッションフルーツの販路拡大

三宅島では火山性ガスの影響を受けにくいパッションフルーツの導入が一気に進みました。現在９戸の農家が計3,400㎡の施設で栽培しています。島内では夏の風物詩として多くの島民の支持を得ています。

平成27年からJA東京むさしの協力で小金井、三鷹、武蔵野、国分寺の農産物直売所で、平成28年からはJA東京みどりの協力により「みのーれ立川」でも販売が始まりました。普及指導センターでは、今後も生産・販売の両面から振興を図ってまいります。

「みのーれ立川」での販売

八丈メモ　JA女性部加工部会の加工場が移転

JA東京島しょ八丈島女性部加工部会は、平成28年９月に新たな施設に移転しました。新しい施設は作業スペースが広く、調理器具の増設が可能なことから、これまでの「八丈フルーツレモン」ジャムに加え、島内産の野菜を利用した惣菜の製造・販売も計画しています。

普及指導センターでは、施設移転後に維持管理費用が大きく増加したことを受け、健全な運営が継続できるよう、経営や加工の専門家にアドバイスを求め、取組を支援していきます。

新しい加工施設

お知らせ

◎２月３日(金)～５日(日) 第66回関東東海花の展覧会
会場：池袋サンシャインシティ文化会館２階展示ホール

◎２月９日(木)「東京都農業男女共同参画フォーラム」
会場：立川市女性総合センター・アイム１階ホール

●表紙写真：新島の農産物加工品

◆お問い合わせは下記まで・・・

島しょ農林水産総合センター振興企画室　☎03-3454-1953
島しょ農林水産総合センター大島事業所普及指導センター　☎04992-2-1123
島しょ農林水産総合センター大島事業所普及指導センター新島分室　☎04992-5-0281
島しょ農林水産総合センター三宅事業所普及指導センター　☎04994-6-1414
島しょ農林水産総合センター八丈事業所普及指導センター　☎04996-2-3158
農業振興事務所振興課技術総合調整担当　☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション 島しょ版
平成29年１月１日発行
印刷物規格表第1類 登録番号(27)11
編集・発行　東京都農業振興事務所振興課
立川市錦町３-12-11
☎ 042-548-5053
FAX 042-548-4871
印　刷　社会福祉法人　東京コロニー
☎ 042-394-1113

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。